

防災・減災対策が前進

感震ブレイカーの補助拡大

横浜市会議員

仁田まさとし

2020年度の横浜市
の予算案などを審議する
市会定例会が1月30日か
ら3月24日まで行われま
した。

が明らかになりました。
感震ブレイカーは設定
値以上の地震発生時に自
動的に電気供給を遮断す
るものです。国の報告に
よると、阪神・淡路大震
災や東日本大震災の原因
が明らかかな火災の6割が
電気に起因するものでし
た。感震ブレイカーの設
置で家庭からの出火を防
止することができます。

市は木造住宅密集市街
地を対象に、自治会町内
会のおおむね10世帯以上
から申し込みがあれば、
感震ブレイカーの購入・
設置費用の2分の1（1
個につき上限2千円）を
補助しています。これま
でに約1万6千件を補助
してきましたが、市内の
木造密集地域にある住宅
は約35万世帯以上あり、
設置をさらに進めるべき
だと訴えてきました。

請が可能になります。器
具は自宅まで届けられ、
高齢者のみ世帯などには
器具の取り付けも実施さ
れます。
新制度の対象地域的全
世帯には、このことが説
明された案内チラシがポ
スティングされます。ま
た、市による説明会も開
かれ、その場でも申し込
むことができます。質疑
の中で私は「設置が進ん
でいない地域に向いて
説明会やアンケートを行
い、そこで出た意見を参
考にして普及につなげる
べき」と主張しました。

防災拠点の電源確保を

私は3月9日にあった
予算特別委員会の総務局
審査で質疑に立ち、防
災・減災対策などについ
て取り上げました。この
中で感震ブレイカーの設
置で家庭からの出火を防
止することができます。

昨年台風で鉄塔が倒
れ、停電が長期間続くこ
とがありました。災害時
の避難場所である地域防
災拠点で電源を確保する
ことは大きな課題です。
質疑では拠点の電源確保
策や通信環境の整備を求
めました。

かかせないスマートフォン
の充電は、モバイルバッ
テリーなどの自助努力が
前提です。しかし、停電
の長期化も考え、夜間照
明に使う発電機を日中は
スマホ充電にも使えるよ
うにするなど、柔軟に対
応していくことが大切だ
と訴えました。加えて、
Wi-Fiの確保につい
ても要望しました。

個人申請も可能に

20年度は、従来の制度
に加え、不燃化を進める
重点対策地域に限り、手
続きを簡素化して個人申
請が可能になります。器
具は自宅まで届けられ、
高齢者のみ世帯などには
器具の取り付けも実施さ
れます。

20年度は、従来の制度
に加え、不燃化を進める
重点対策地域に限り、手
続きを簡素化して個人申
請が可能になります。器
具は自宅まで届けられ、
高齢者のみ世帯などには
器具の取り付けも実施さ
れます。



仁田まさとし プロフィール

- こども青少年・教育委員会
- 基地対策特別委員会
- 監査委員

◇施政方針は「動く、創る、変える。」
ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>

情報発信中

20年度は、従来の制度
に加え、不燃化を進める
重点対策地域に限り、手
続きを簡素化して個人申
請が可能になります。器
具は自宅まで届けられ、
高齢者のみ世帯などには
器具の取り付けも実施さ
れます。